

参考資料 1

第 4 期岡山県障害福祉計画策定に係るアンケート調査結果（抜粋）

第 4 期岡山県障害福祉計画の策定に当たり、平成 26 年 6 月から 8 月にかけて、障害のある人 2,100 人（回答者 1,336 人）を対象に生活実態や支援ニーズ等に関するアンケート調査を実施しました。

調査結果のうち、「地域で生活するためにあればよいと思う支援」、「障害者の就労支援として必要なこと」及び「今後のサービスの利用の意向」などの状況は次のとおりでした。

1 地域で生活するためにあればよいと思う支援

地域で生活するためにあればよいと思う支援は、全体では「障害者に適した住宅の確保」が 42.7%と最も高く、次いで「経済的な負担の軽減」(41.4%)、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(41.1%)、「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」(35.7%)となっています。

障害別にみると、身体障害のある方は、「障害者に適した住居の確保」が 47.8%と最も高く、知的障害のある方は「必要な住宅サービスが適切に利用できること」が 41.3%と最も高くなっています。

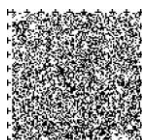
2 障害のある人の就労支援として必要なこと

障害のある人の就労支援として必要なことは、全体では「職場の障害者理解」が、43.0%と最も高く、次いで「職場の上司や同僚に理解があること」(34.2%)、短時間勤務や就労日数等の配慮」(29.4%)、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(26.9%)となっています。

障害種別ごとにみると、身体障害のある方、知的障害のある方は「職場の障害者理解」が最も高く、精神障害のある方（入院患者）は「通勤手段の確保」、「職場の上司や同僚に理解があること」、精神障害のある方（在宅者）、発達障害のある方は「職場の上司や同僚に理解があること」が最も高くなっています。

3 今後のサービスの利用の意向

今後どのようなサービスを利用したいかについては、相談支援が 43.6%と最も高く、次いで、施設入所支援(30.5%)、生活介護(30.3%)、自立訓練（機能訓練、生活訓練）(28.3%)、短期入所（ショートステイ）(28.0%)、居宅介護（ホームヘルプ）(27.4%)となっています。



4 障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことの有無

障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことの有無は、全体では「ない」が41.7%と最も高く、次いで「ある」(25.4%)、「少しある」(23.5%)となっています。

障害種別ごとにみると、知的障害のある方、精神障害のある方（在宅）、発達障害のある方は「ある（「ある」と「少しある」の合計）が「ない」を上回っています。

また、どのような場所で差別や嫌な思いをしたかについては、外出先（46.8%）、住んでいる地域（31.7%）、学校・仕事場（30.9%）、余暇を楽しむとき（17.7%）、病院などの医療機関（14.8%）となっています。

5 自由意見（主なもの）

- ・人の目が気になる（ジロジロ見られているよう）
- ・聞こえないことで、会議・会話に参加できない。
- ・障害者同士で差が大きすぎる。
- ・周囲から、障害の程度がわからないためか理解していただけない。
- ・行政の福祉担当職員が少ない、障害特性に対応してもらえない。
- ・公的機関や施設の関係者も、もっと障害者についての理解や、温かい対応が出来るよう努力をお願いしたい。
- ・就労支援B型に通っているが、相変わらずの低賃金である。
- ・援助者と一緒に外出した際に、本人に独り言や奇声があるため、周囲の大人や子どもからの視線が非常にきついと感じられる。
- ・誰もが地域で暮らすことが幸せにつながるとは考えないでほしい。本人も家族も施設に入所している事によって安心している（知的障害者）。
- ・障害の程度は個々に違いがあるので、もっと障害者の声を聞いて欲しい。
- ・福祉サービスを受けようと思っても、どんなものがあるかわからないので細かく情報発信して欲しい。
- ・障害者が高齢になる時代となっており、それに対する対策を進めて欲しいと願う。
- ・小・中・高の子どもたちに、障害者への偏見をやめて欲しい。
- ・年老いた両親はいるけれど、グループホームでの生活の後、親亡きあとが気がかり。
- ・事業所が躊躇無く、グループホームを設置することが出来るよう、行政としても支援をしていただきたい。

